

エボラ出血熱に使用することが検討されている主な未承認の治療薬・ワクチン

種別	名称	概要	実現・入手可能性
治療薬	アビガン <一般名: ファビピラビル> (化合物)	<ul style="list-style-type: none"> ・富山化学工業(日本)が開発。経口剤。 ・日本で抗インフルエンザ薬として承認。 ・エボラウイルス感染に対しては、ヒトやサルでは実証されていないが、マウスで有効性を示唆するデータがある。 ・催奇形性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の流行で一定の条件の下、緊急対応として患者に提供。少なくとも4例に投与。 ・現時点で国内に2万人分の錠剤を有し、原薬としてさらに30万人分程度の在庫を保有。
	TKM-100802 (化合物)	<ul style="list-style-type: none"> ・テクミラ・ファーマシューティカルズ社(加)が開発。静注で使用。 ・健康なボランティアへの高用量の1回投与では、頭痛、めまい、胸部圧迫感、心拍数の増加がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・米国FDAがエボラウイルスの曝露後予防・治療目的での緊急時使用を許可。 ・今回の流行で少なくとも1例で使用されたことが報告されている。効果は不明。 ・2015年始めまでに900回分の生産能力が見込まれる。
	ZMapp (モノクローナル抗体混合物)	<ul style="list-style-type: none"> ・マップ・バイオファーマシューティカル社(米)らが開発。静注で使用。 ・動物実験(サル)で有効性を示唆するデータあり。 ・ヒトでの安全性試験は行われていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の流行で7例に投与。効果は不明。現時点では安全性の懸念情報は報告されていない。 ・現在在庫なし。 ・今後の供給量も不明。
ワクチン	rVSV-ZEBOV	<ul style="list-style-type: none"> ・カナダ公衆衛生庁の国立研究所が開発。 ・ニューリンク社(米)が大量生産や臨床試験の責任を持つ。 ・動物実験(サル)では全20個体で防御された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1相試験を米国で実施中。年内に初期データが得られる見込み。 ・カナダ政府がWHOに800-1000回分寄付すると発表(8月12日)。
	CAd3	<ul style="list-style-type: none"> ・GSK社(英)が製造。 ・動物実験(サル)では全16個体で防御された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1相試験を米国、英国、マリで実施中。年内に初期データが得られる見込み。 ・来年始めに第2相試験を西アフリカで行う予定。

備考: そのほか、患者回復期血清が治療に使用されている事例がある。